

国語

日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2月3日	一	評論読解（安藤寿康「赤い糸の生物学」による） 漢字の選択・空所補充・傍線部解釈・語句の用法・四字熟語・内容一致	標準
	二	評論読解（片岡寛光「人間と人工知能—文明論的考察—」による） 漢字の選択・空所補充・傍線部解釈・言葉の意味・内容一致	やや難
	三	国語常識問題 文意の判定・語句の正誤判定・語句の選択・慣用表現の理解	標準
2月7日	一	評論読解（飯野由里子『障害があるように見えない』がもつ暴力性）による） 漢字の選択・空所補充・文の並べ替え・傍線部解釈・内容一致	標準
	二	評論読解（長尾真『『わかる』とは何か』による） 漢字の選択・空所補充・傍線部解釈・言葉の意味・内容一致	標準
	三	国語常識問題 文意の判定・語句の正誤判定・語句の選択・慣用表現の理解	標準
2月8日	一	評論読解（壇谷雄高「兜と冥府」による） 漢字の選択・空所補充・傍線部解釈・指示語・内容一致	やや難
	二	評論読解（村上靖彦「交わらないリズム」による） 漢字の選択・空所補充・傍線部解釈・内容一致	やや難
	三	国語常識問題 文意の判定・表現不備判定・語句の正誤判定・慣用表現	標準
2月9日	一	評論読解（村上陽一郎「COVID-19から学べること」による） 漢字の選択・空所補充・傍線部解釈・言葉の意味・内容一致	標準
	二	評論読解（加藤幸子「尾崎翠の感覚世界」による） 漢字の読み・空所補充・傍線部解釈・内容一致	やや難
	三	国語常識問題 文意の判定・表現不備判定・語句の正誤判定・慣用表現	標準
3月5日	一	評論読解（五味淵典嗣『『敗け方』の問題』による） 漢字の選択・空所補充・傍線部解釈・語句の意味・内容一致	やや難
	二	評論読解（齋藤純一・谷澤正嗣「公共哲学入門」による） 漢字の選択・空所補充・傍線部解釈・内容一致	やや難
	三	国語常識問題 文法・表記の不備判定・語句の正誤判定・語句の選択・慣用句	標準

<出題傾向>

前期4日程、後期1日程のいずれも大問3題の構成となっている。問題一が3000～3500字程度の評論を読んで9～10問の設問に答える読解問題、問題二が2000字前後のやや短めの評論を読んで6～7問の設問に答える読解問題、問題三が設問4問からなる国語常識の問題という構成である。この傾向は昨年度以前から変わらない。問題文は人文・社会・自然科学の広い領域から採用されている。文章は標準的な内容のものがほとんどで、筆者の考えが明確に示され、論理的に読んでいけば十分に理解し解答することができるものが大半であるが、今年度の2月8日の問題一・二、2月9日の問題二などはやや難解で、表現が抽象的であるなど、捉えにくい文章であった。その意味では油断することはできない。解答形式はすべて4～8肢択一のマーク式となっている。

問題一・問題二の設問は、文脈を論理的に捉える力を問うことを目的としたものが中心である。具体的には、問題文中に引かれた波線部の内容や理由、具体例を問う問題、問題文の空所に入る語句や表現、内容を選ぶという空所補充形式の問題があり、最後に、問題文全体の主旨の理解を問う内容一致問題が置かれている。なお、過去には文学史の出題も見られたが、今年度は出題されなかった。

問題三は、言語事項（漢字・文法・語彙など）に関する独立した知識問題である。文意が一通りに限定されるものを選ばせたり、言葉の表記や使い方の正誤を判定させたりするなど、さまざまな形式で国語常識に関する出題がなされている。設問数は一定でなく、いくつかのパターンが組合せられているが、慣用句を完成させる空所補充は全日程で出題されている。

<学習対策>

上述のように漢字や知識問題が多いことから、まず、これらの問題で確実に得点することが重要である。難しい語句や難読漢字などは出題されないので、標準的な問題集などで繰り返し漢字や語句の定着を図るように心がけたい。問題三ばかりでなく、問題一や二でも漢字や語句、語彙の問題は必ず出題されているので、出題者が正確な語彙力・漢字力を求めていることは明らかである。漢字や語句の習得には時間がかかり、また地道な反復学習が必要になってくるが、これらの知識が定着してくれば、本文の読解力にもつながってくるので、労をいとわぬことが大事である。また、日頃文章を読んでいて意味のわからない言葉や語句、漢字に出会ったら、その都度辞書などで確認することも心がけたい。

次に問題一・二の論理的な文章への対策について述べよう。比較的平易で読みやすい文章が出てくる場合もあるが、抽象度の高い難解な文章も出題されるので、しっかりとした準備が必要になる。

まずは標準的な現代文の問題集を繰り返し解くことを勧めたい。実際の問題を使いながら、筆者が何を主張しようとしているのかを論理的に追いかける練習を繰り返すことが効果的である。一通り標準的な文章問題を終わらせた後、上級レベルの文章を扱っている問題集にもチャレンジしていきたい。抽象度の高い文章に積極的に取り組み、本文を深く吟味しながら、抽象的な内容を自分なりに具体化して、理解していく学習が求められる。「社会学」や「論理学」など、大学で学習するような内容も散見されるうえ、独特な世界観を持つ筆者の手になる文章も出題される（2

月8日の問題一、2月9日の問題二など）。このような世界観をすべて網羅的に勉強することは難しいだろうが、抽象度の高い文章に慣れておくと、試験本番で読んでもどうにか理解ができるようになるはずだ。これも時間はかかるが、時間をかけて勉強したぶんだけ実力は確実に伸びるので、たゆまぬ努力を重ねてほしい。

また、現代文の勉強はただやみくもに問題集を解けばよいというものではない。現代文とは、受験生の「論理的な読解力」の有無を試す科目である。したがって「論理的に読む」ということはどういうことなのかを知っておかなければならない。論理的に読むとは「論の流れを追う」ということである。そのための方法の一つとして、「反復」と「対比」に注目しながら読むことを挙げておきたい。つまり、何が繰り返され、何が対比されているかに注意しながら読むということだ。現代文を読むに当たっては、まず「筆者の主張」を捉えることが重要であるが、それはたいいていの場合、文章の中で何度も表現を変えながら繰り返されている。そうした「反復」を捉えることができれば、「筆者の主張」も見えてくるはずだ。また、筆者は自分の主張を説得力あるものにするために「根拠」と「具体例」を示している。この「筆者の主張」とその「根拠」「具体例」を意識して捉えることが、とりもおさず論理的に読むということである。さらに、筆者は自分の主張をより明確にするためにあえて自分の意見と異なる主張などを示し、その問題点を明示することで自分の意見をより説得力あるものにする場合も多い。「対比」に注目するというのは、こういうことである。以上のようなことを常に意識して取り組むことが、論理的な現代文を読むうえで不可欠なことである。

そのうえで、できれば「現代という時代はどのような時代か」ということにも目を向けた学習をしてほしい。なぜなら現代文はその名の通り、「現代」を語る文章だからである。上述のように人文・社会科学ばかりでなく自然科学に関する文章も出題される。政治や経済、差別や環境破壊、戦争や人工知能、遺伝子の問題など、出題される内容は非常に幅広い。新聞や本などでこれらの問題の基本的な知識を習得している場合とそうでない場合とで、大きな差ができてしまう。この点にも注意して学習してほしい。

以上述べてきたようなことを心がけ、地道な努力を積み重ねていけば、必ずや合格への道は開けるはずである。

以上